

看取りケアに際して

～現場の介護職員ができること～



佐倉〈ゆうゆうの里〉

ケアサービス課

○新田 歩惟

岡野 裕子

安納 れの

藤田 めぐみ

## 〈ゆうゆうの里〉の看取り介護指針

医師が一般に認められている医学的知見に基づき  
回復の見込みがないと診断した入居者に対して  
最期を過ごす場所及び治療などについて  
入居者や家族の意向を最大限に尊重して行います。

# 〈ゆうゆうの里〉の看取り

最期までその方らしく  
暮らせるように  
多職種が一丸となって  
お手伝い



# 背景

## これまでの看取りケア

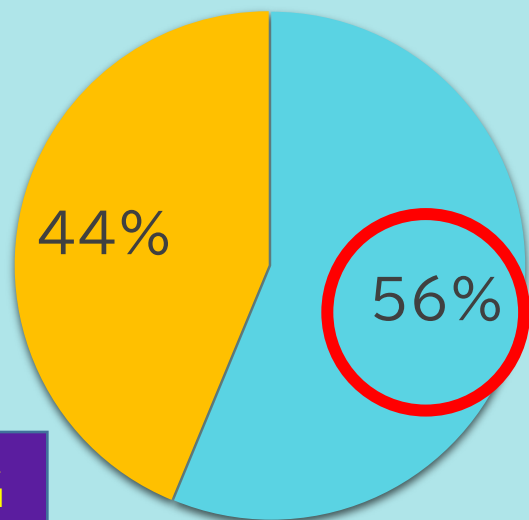
- ・職員の力量に頼る部分が多い
- ・スタンダードが十分に定着できていない

2022年4月 1度に4人の看取りケアが重なった



# アンケート実施 2022年5月実施

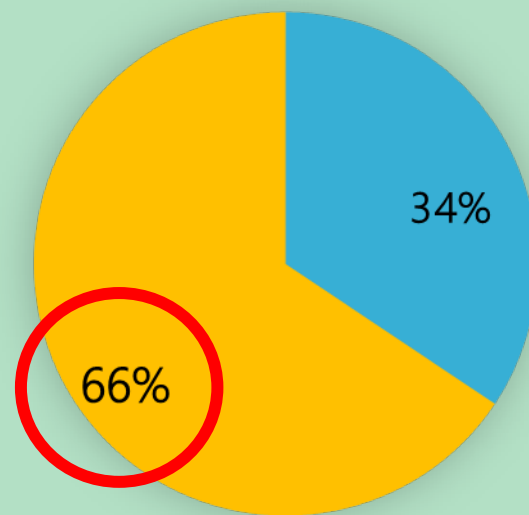
看取りを対応する事で  
困った事や不安だった事が  
ありますか？



回答数32名

■ ある ■ なし

看取りに関する学習を  
しましたか？



■ ある ■ なし

# 方法 ①

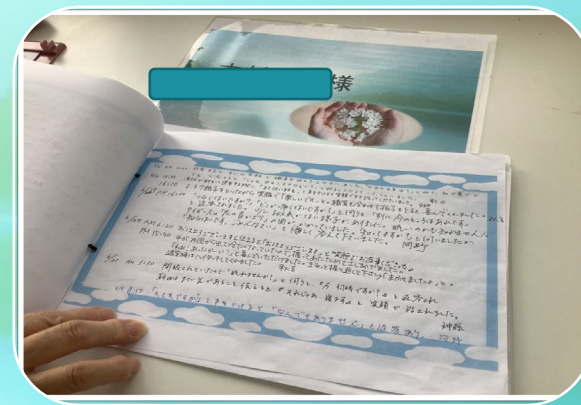
## 看取りのスタンダードな物品の確保



アロマディフューザー



CDプレイヤー



日誌

## 方法 ②

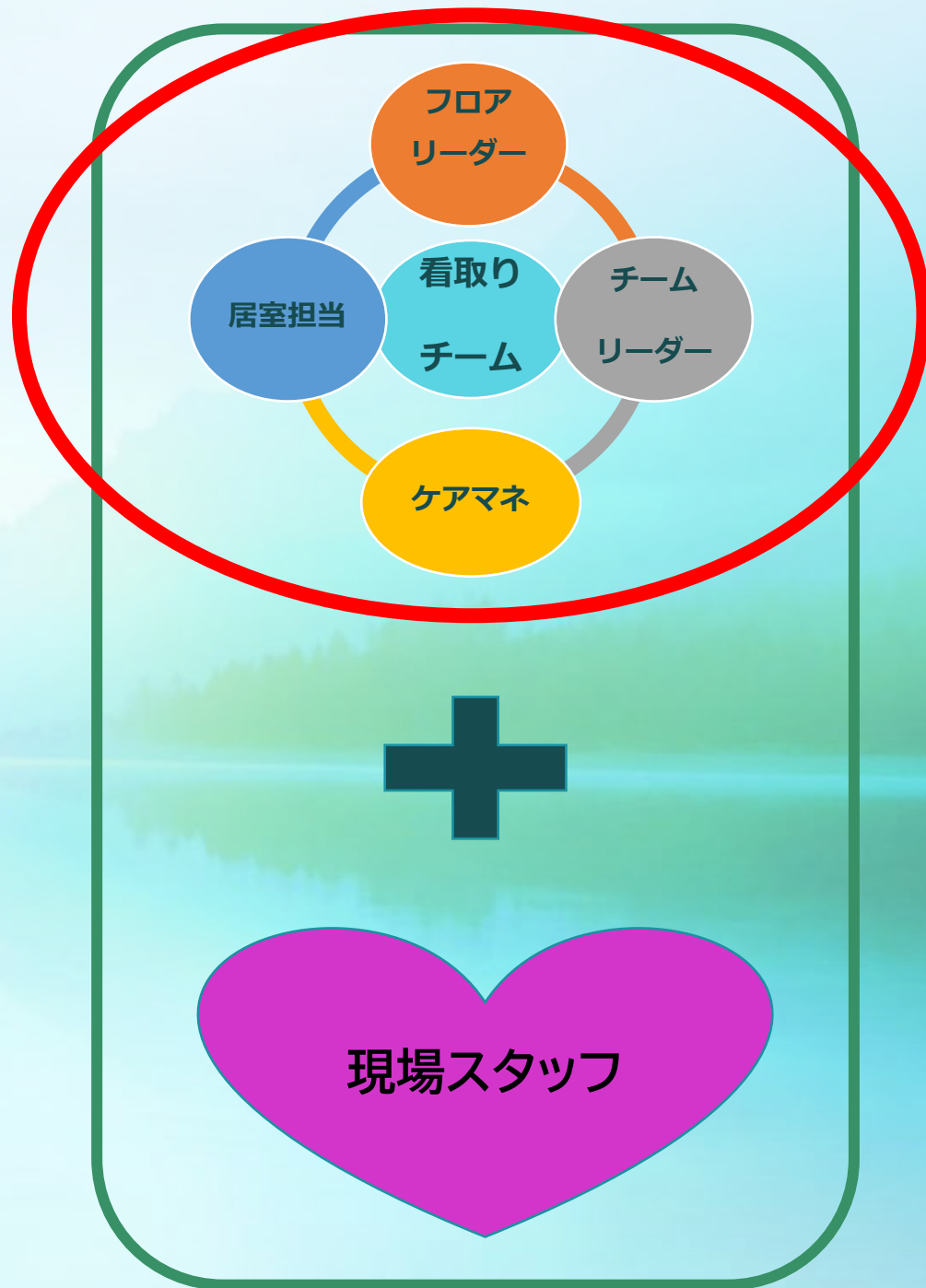
# 専用の看取りハンドブックの作成



# 中心となって看取りケアを行う チームの結成



看取りチームと現場のスタッフが協力  
⇒看取り対応の強化





## 事例

対象者 Aさん 女性

5月下旬から食事量が大幅に減少。

6月より絶飲食

⇒看取り対象者となる。

# 看取りハンドブックの作成

## ●Aさんの思い

- ・認知症があり、希望は聞けず。

## ●家族の思い

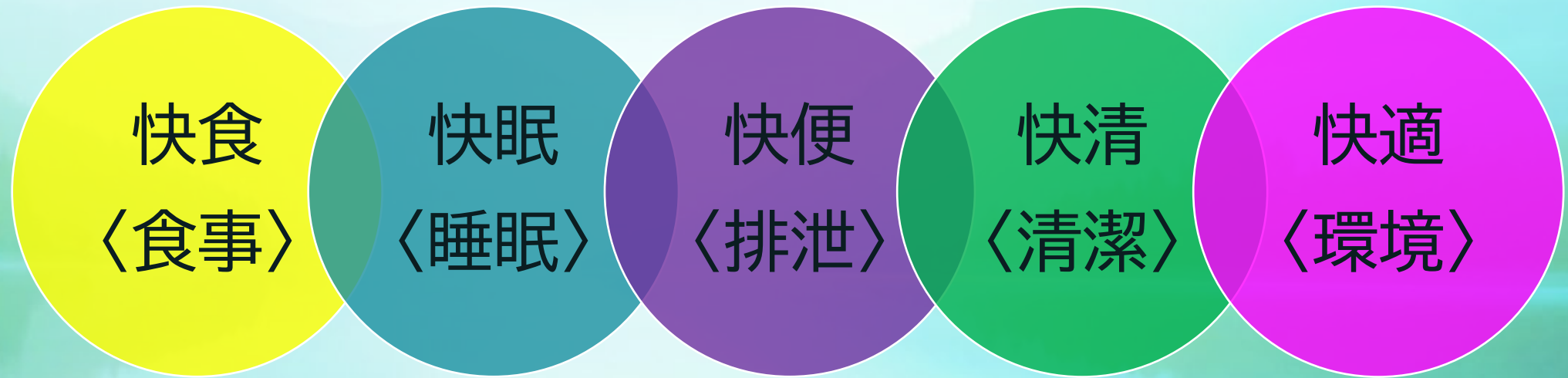
- ・童謡が好きでした。音楽を流して欲しい。
- ・自然に枯れるように逝って欲しい。

# 看取りハンドブックの作成

Aさん専用の看取りハンドブック



# 「5つのポイント」に添って作成



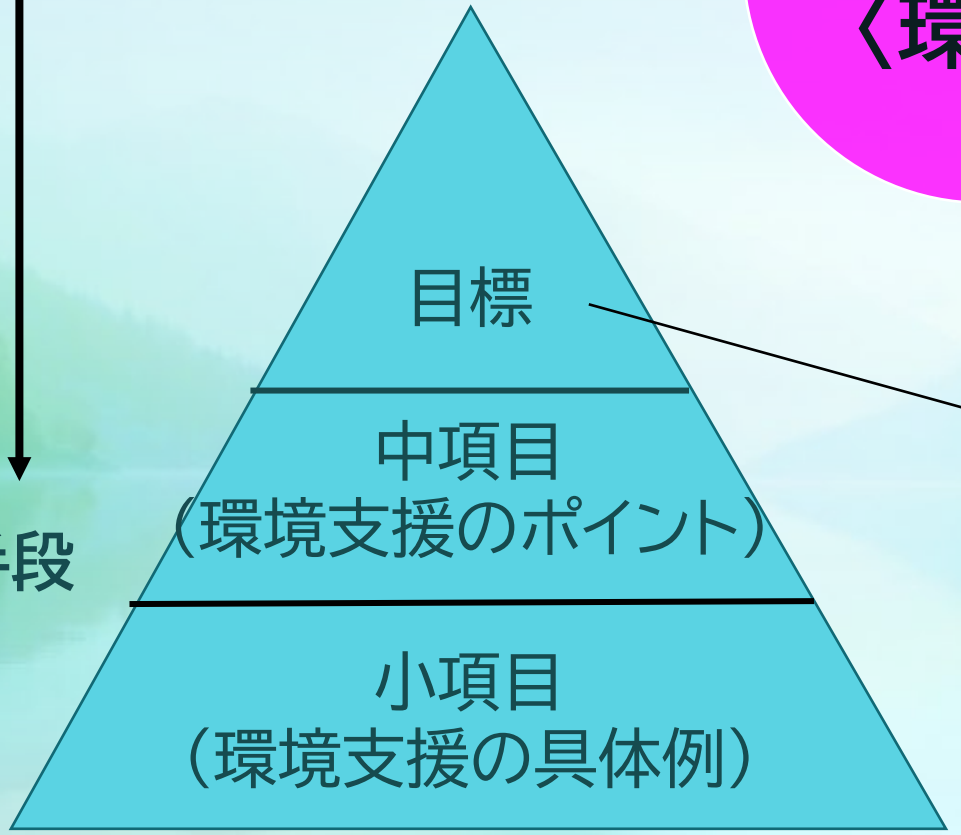
「イエズスみこころ病院ホスピスケア」より



目標



手段



- I 見当識への支援 (4)
- II 機能的な能力への支援 (3)
- III 環境における刺激の質と調整 (8)
- IV 安全と安心への支援 (2)
- V 生活の継続性への支援 (3)
- VI 自己選択への支援 (4)
- VII プライバシーの確保 (3)
- VIII 入居者とのふれあいの促進 (4)

PEAP日本版3 構成

# Aさんに合わせた「5快」を作成

peap日本版3 環境支援指針に基づく

## 1見当識への支援

- ・起床時には挨拶をし日付、時間 天気等を伝えます。

## 2機能的な能力への支援

- ・状態を観てアロマを使用し、手や四肢をさする等、リラックスしていただくように支援します。

## 3刺激の質 調整

- ・2時間毎に訪室し、室温・湿度等を確認し、日中はカーテンや窓を開け、外の様子を話し、季節を感じていただきます。

## 4安全 安心への支援

- ・終日、2時間毎(状態による)に訪室し、体位交換します。

## 5生活の継続性への支援

- ・自然がお好きなので花などを飾ります。
- ・ベットから見える位置に写真を飾ります。

## 6自己選択の支援


- ・本人の状態を確認し、好きな童謡のCD曲を流したりします。

## 7触れ合いの促進

- ・体調の良いときは状態に応じ、リクライニング椅子に起きていただき散歩等対応します。

## 8その他

- ・家族のグリーフケアを考慮し、職員の対応日誌を作成します。



快適  
〈環境〉

快食  
〈食事〉

- ・家族や本人の希望を重視し形態・風味等を検討。訪問歯科や食事サービス課と連携。
- ・好きな食べ物はせんべい。(家族からの聞き取りから)

快清  
〈清潔〉

- ・主治医と相談し、入浴や清拭を実施。
- ・毎日職員2名で1日4回、口腔ケアを実施。

快眠  
〈睡眠〉

- ・理学療法士と介護職で体位を検討し、ポジショニングを統一。
- ・安眠に効果のあるアロマを焚く。

快便  
〈排泄〉

- ・医療と連携し、排便の有無や変化等に留意する。
- ・清潔を保ちスキントラブル予防する。

# 職員日誌について



## 職員から

- ・ケアカルテへの記録とはまた異なり、メッセージに温かみを感じた。
- ・日誌を書くにあたり、いつも注意深く様子を観察した。
- ・対象の入居者と積極的に繋がる事ができた。
- ・日誌を書く事により、対象の入居者や家族の気持ちに、以前より増して寄り添う事ができた。

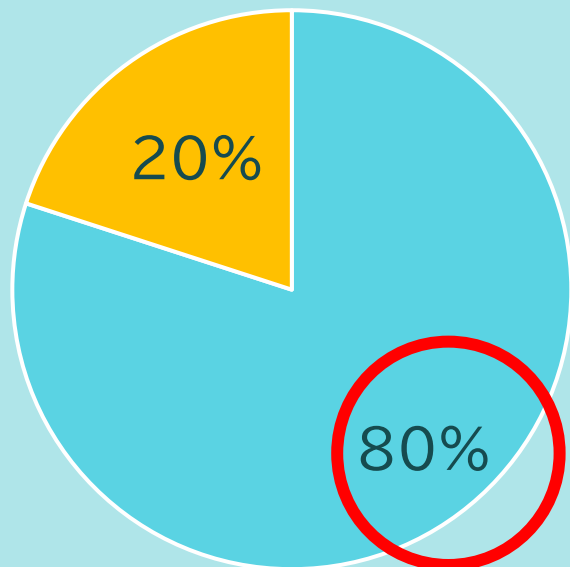
## 家族から

「皆さんに良くしていただいていたのですね。本当にありがとうございます。」  
感謝の言葉



## 8月・事後アンケート実施

看取りケアハンドブックに基づくケアが実施できましたか？



回答数32名

■ はい ■ いいえ

「ハンドブックを通しAさんを知れたことで、何をすべきか考えてケアをすることができた」

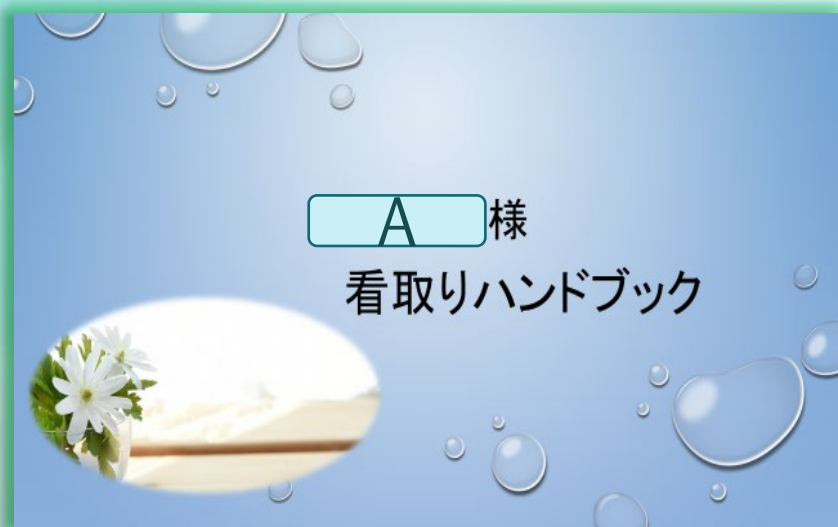
「日常生活も看取りケアの一部であることを理解することができた。

いつもより丁寧なケアを心掛けた」

「声掛け一つでも看取りケアの一部であると感じた」

# 結果

- ・具体的でわかりやすいハンドブックを作成し、細かな部分までケアを統一したことが、これまでの看取りに対する不安をなくすことに繋がった。
- ・日誌を通じて看取りケアの様子を伝えることができ、面会に来られない家族へのグリーフケアの一環になった。



## 今後の課題

- 経験の浅い職員からは「実際に病状が急変した時、変化に気づけるか不安がある」との声もあがっている。



- 終末期の変化など基礎的な看取りケアに関する研修の強化。



ご清聴ありがとうございました

参考資料

- 1) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・下垣光編:PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規、2010. 8
- 2) <http://www.kankyozukuri.com/>